

# 公益社団法人 神奈川県LPガス協会について

(公社)神奈川県LPガス協会は、神奈川県に登録した県内のLPガス販売会社で構成され、LPガスをお使いの皆様への情報提供と、LPガスによる災害を防止し、公共の福祉に貢献しています。また、行政とLPガス業界とのパイプ役を担い、会員会社の安全・安定供給と適正な取り引きを指導し、神奈川県LPガス業界の向上を目指すとともに、地震災害復旧対策などをはじめ、各行政機関と連携して地域貢献を図っています。また平成24年4月1日には法人格を公益社団法人へ移行し、これまでに増してより公益に寄与してまいります。

## 協会の取り組みのご紹介

### 防災訓練への積極的な参加

防災関係機関を担う一員として、相互関係協力強化の向上を図るため、関東地域で発生する大規模地震を想定して行う「神奈川県・市合同総合防災訓練」「横浜市総合防災訓練」「川崎市総合防災訓練」などに参加しています。



### 消費者相談

ガスやガス器具などガス使用や、ガス契約にまつわる諸々など、LPガスについての専門相談機関として「神奈川県エルピーガスお客様相談所」を開設しています。

### ガスメーターリサイクル活動

これまで産業廃棄物として処分していたガスメーターを一斉に回収することによって、リサイクル資源として得た資金を活用し、社会福祉施設に資機材を寄贈する社会貢献活動を推進しています。

### 地震対策助成金

LPガスは大地震でも被害が少ないため、震災時に避難所になる公共施設等では、平常時からLPガスを常用しておくことが、災害時にそこが避難所になった時、被災者の避難生活の質の向上や不安の軽減が計れます。当協会では、大規模地震対策としてのLPガス施設の導入に対し「地震対策助成金制度」を設け、助成を希望する避難所等を募集しています。

### 孤立死防止「地域見守り活動」

平成24年5月17日(木)、孤立死を未然に防ぐ活動「地域見守り活動」への協力について、神奈川県と協定書を交わしました。

お問い合わせは

## 公益社団法人 神奈川県LPガス協会

〒231-0003  
横浜市中区北仲通3-33 共済ビル別館  
TEL. 045-201-1400  
<http://www.kanagawalpg.or.jp/>

## 避難施設等でのLPガス常時使用のすすめ!



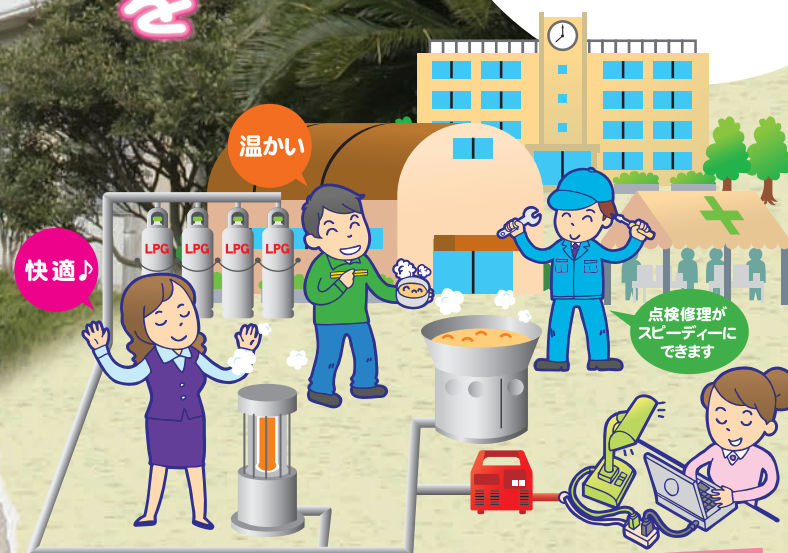
GHP

公共施設のLPガス常用は  
被災時の「気持ちのさそい」を  
つくります。

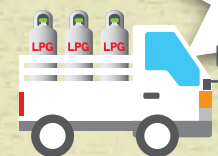


都市ガスが遮断  
避難所への道路が遮断

届けられなくても、大丈夫!



災害に強いLPガスは、暖かな環境で被災者の方々を守ります!



公益社団法人 神奈川県LPガス協会



# LPガスを見直そう!

東日本大震災の後、災害時にLPガスの強さを再認識する人が増えています。

3月11日、東日本大震災の津波で気仙沼中心地では、ほとんどの家屋が津波により倒壊しました。私の店舗も同様に被災のため数店舗失いましたが、幸い津波から免れた洋菓子の店舗兼工場があったことから菓子やパンを避難所へ運び、浸水した本社屋のレストランから4本のプロパンガスを工場へ運び込み、電気も水も失った中、ガスさえあればと冷凍・冷蔵庫の食材料を全て使用。油と粉はふんだんにあったので地元の経営者がいろいろと差し入れてくれた魚や肉やたまご等を使った食べ物を料理する一方、集った従業員全員で粉を手でこねて、あげパンやドーナツを揚げ、フライパンでパンを焼きました。まるで戦後のような状況の中、涙を流し寒さの中震えながら「何かください」「助けて下さい」と限りなく店に入ってくる方たちに、共に頑張っ生きてようと勇気声を掛け、とても充分ではありませんが食を提供できました。

数日間、我も忘れていたので何を作ったかも覚えておりません。あのときは寒い時期だったので、ガスで暖も取れ助かりました。

多くの被災者をお手伝い出来たのは、50kgのプロパンガス4本が頼みの綱だった事をよく覚えております。

最後に震災後、全国のお客様より当社の銘菓・手づくりゴットのたくさんの注文を頂いております。本当にありがとうございました。

(宮城県：(株)パルポー 代表取締役 小野寺 恵喜)



※当冊子に特別にご寄稿いただきました。

今年の東日本大震災で我が家も停電になりましたがLPガスだったお陰で、電気は止まって不便な中、ガスは使用できたので煮炊きには困らずに済みました。急な災害でパニック状態でしたが、ガスが使えた事はとてもありがたかったです。

(岩手県：30代：女性)

震災を経験し、考えが変わりました。災害時に強いというのはもちろんですが、環境に優しく、危険が少ないということがわかりました。日々リスクと隣り合わせで作られたエネルギーを使うよりも、安心して使うことができるLPガスの方が環境にも未来にもやさしい生活が送れる事がわかりました。(一部省略) (茨城県：30代：女性)

災害時に、素早く供給してくれるのは、LPガスなんだと、考えさせられました。これから、どんな、自然災害が起こるのかわからない中で、何かの時には、ガスは、命をつなぐ、生命線だと、思います。LPガスの必要性を強く感じました。今まで、考えもしなかったもので、とても参考になりました。

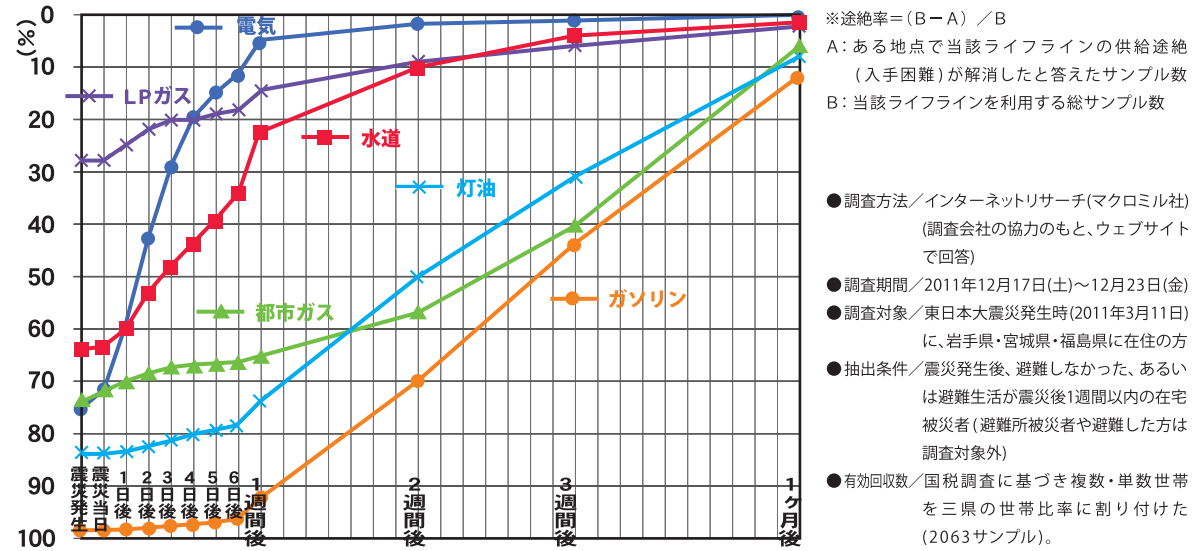
(神奈川県：50代：女性)

※東日本大震災被災地の方々の声 及び、首都圏、東海・東南海地域の消費者の声 (日本LPガス協会WEBアンケート調査結果より)

# 自然災害とライフライン

電気・ガス・上下水道等のライフラインの早急な復旧に向け、東日本大震災における被災状況や復旧の実施状況の分析を踏まえ、各ライフラインの管理者は、予防力向上に向けた設計基準の見直しや復旧の迅速化のためのマニュアルの整備等を早急に行うべきである。（※防災対策推進検討会議 最終報告より引用）

## アンケート調査による被災3県におけるライフライン途絶率の推移 (N=2063)



出典:(財)電力中央研究所 電中研報告: Y11027「東日本大震災・被災地におけるエネルギー利用実態調査」

## 神奈川県地震被害想定結果一覧表

項目		想定地震				
		南関東地震	神縄・国府津・松田断層帯の地震	神奈川県西部地震		
マグニチュード		7.9	7.5	7.0		
被害想定結果	建物被害	全壊棟数 (棟)	410,620	117,600	22,200	
		半壊棟数 (棟)	403,120	220,180	36,400	
	火災被害	焼失棟数 (棟)	161,750	39,810	3,490	
	自力脱出困難者数 (人)		91,340	23,090	3,350	
	人的被害	死者数 (人)	8,460	1,500	430	
		負傷者数 (人)	259,430	57,120	9,290	
	ライフライン	電力	停電軒数 (軒)	2,207,930	676,500	90,540
		都市ガス	供給停止件数 (件)	1,433,420	185,920	46,150
		LPガス	ボンベ被害数 (本)	23,650	10,880	2,220
		上水道	断水世帯数(直後) (世帯)	1,692,110	642,860	69,180
	避難者数	1日後 (人)	3,959,540	1,460,500	246,130	
	帰宅困難者数	直後 (人)	774,350	774,350	729,260	

※元禄型関東地震については、津波による建物被害のみを示す。地震動による被害を求めていないため、人的被害は算出していない。  
 ※概ね被害が最大となる冬18時を想定した結果を示す。このほか冬5時、夏12時についても想定している。  
 ※建物被害の全壊・半壊棟数とのダブルカウントを処理した値である。

## かながわの活断層



出典:神奈川県ホームページより(神奈川県ホームページ「神奈川県の活断層」を元に作成)

出典:神奈川県地震被害想定調査報告書(概要版)より

# LPガスで、災害に強い都市づくりを

LPガスは「道路寸断に負けないエネルギー源」



東日本大震災翌日の国道45号線(南三陸町志津川地区)



(※本来の国道45号線)

(撮影：有限会社ササキ写真店 佐々木朋浩)

2011年3月11日に起こった東日本大震災により、東北沿岸では想像だにできなかった大津波が発生し、見慣れた町並みを一瞬にして飲み込んでしまいました。それにより、被災した人々は避難所に集まり少ないスペースで肩を寄せ合って不安と向き合っていました。

こうした状況のなかで、宮城・岩手・福島の三県は個別供給が基本のLPガスの利用が多い地域でした。そのため、電気・都市ガスと比べ復旧は迅速(※P4アンケート調査による被災3県におけるライフライン途絶率の推移を参照)で被害に至らなかった設備も多々あり、また、道路が寸断状態でも、予備として残っているLPガスのおかげで不安も無く、避難所等での炊き出し等がスムーズに行われ災害時のLPガスの有用性が証明されました。

## 災害時に活躍するLPガス



避難所に煮炊き用コンロを導入



災害用バルクユニットの起動



仮設住宅への設置

※伊藤工機株式会社(仙台市)でのバルク事例

# LPガスは「自立分散型エネルギー」

## LPガスは「ラインのいないライフライン」

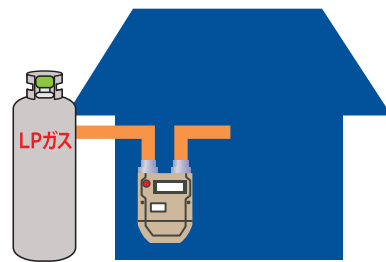
### 「分散型エネルギー」とは？

LPガスが「災害に強い」と言われる最大の理由は、「分散型」と呼ばれる供給形態にあります。1戸ごと個別に供給しているため、配管など供給設備の点検も短時間で済み、異常があればその場で修理することもできるので、迅速な復旧が可能なのです。

### ■LPガスと都市ガスの供給形態の違い

#### LPガス

個別供給



個別点検



- 配管が短いため、異常があれば即修理可能
- 1戸単位で安全を確認し復旧可能なため、復旧までの時間が短い

#### 都市ガス

配管による集団供給



各戸の器具点検、  
ガス栓閉止確認



- 数百個、数千個単位で埋設配管等の安全確認が必要なため、復旧に時間を要する

### 緊急避難施設で活躍するLPガス

大きな被害をもたらした阪神淡路大震災、新潟県中越地震、東日本大震災でも、導管に頼らない「自立・分散型エネルギー」であるLPガスは、他のライフラインに先んじて復旧を果たし、多くの被災者の生活基盤となる避難所や仮設住宅での避難生活を支え、LPガスが災害に強いエネルギーであることを改めて実証しました。

平素、あって当たり前だと思っているライフラインが一気に断たれるのが大規模災害。相次ぐ天災、特に3.11の衝撃は、日頃の暮らしが、いかにエネルギーに支えられたものであるかを知りました。これは視点を変えれば、被災後の生活でも、一定量のエネルギー供給は必ず必要である事を意味します。

LPガスは、途絶リスクが避けられない他のエネルギーとは異なる、いわば「ラインのいないライフライン」、熱源自体が使用場所に近接し、導管は短いので途絶のリスクが少ない上、仮に異常が起きても修復が容易です。また、LPガスを日頃から使用していれば、法令による点検が定期的になされ、メンテナンスの不行き届きで、いざという時にガスが使用できないというリスクはありません。相次ぐ大規模自然災害は、防災都市に求められるエネルギー供給形態は、集中型の供給方式のみに頼らず、自立・分散型エネルギーであるLPガスを併用し、災害時のリスク軽減を図ることが重要である事を教えてくれました。特に、避難生活の拠り所となる公共施設などには、LPガスによる発電、調理、給湯暖房ができるシステムを導入し、平常時から使用しておくことが重要な対策になるでしょう。



避難所に設置したガスコンロ点検



ビックパレット  
ふくしまでの  
炊き出し

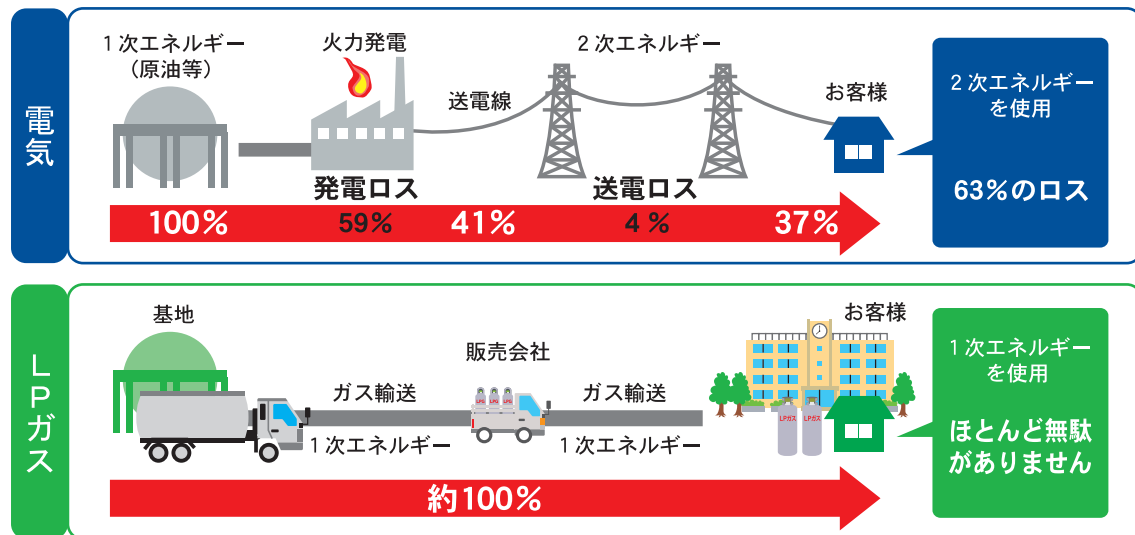


出典：(社)福島県エルピーガス協会

# 環境に優しいLPGガス

地球温暖化をはじめ、さまざまな環境問題に貢献するLPGガス。

## LPGガスが「無駄が少ないエネルギー」である理由



※省エネ法1kWh=9760kJ、および日本ガス協会「CO2削減対策の評価に用いる電気のCO2排出係数について」をもとに算出

## ■省エネルギーガス機器例／エネファーム(家庭用燃料電池)

おうちで採れたてエネルギー。



- エネファームを1kWh稼働させた場合は、従来型システム(火力発電+従来型給湯器)と比較しCO2排出量が約40%低減する(※年間で約1.2tの削減)



## ■省エネルギーガス機器例／エコウィル(家庭用ガス発電機)

ガス発電・給湯暖冷システム



- 新タイプは発電効率約26% エネルギー効率が92%にまで向上!



## ■省エネルギーガス機器例／GHP(ガスヒートポンプエアコン)

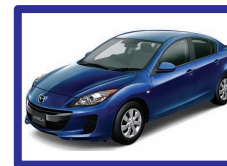


### GHP

- 消費電力は電気エアコンの約1/10
- 通年エネルギー消費効率最大5.6
- EHPに対し年間の一次エネルギー消費量を最大で約17%削減
- EHPよりCO2排出量を26%削減



学校での設置例



## LPG車 人と地球にスマイルを

タクシーや配送トラックで利用されているLPG車。ガソリン供給が途絶した震災直後も大活躍。一般への普及が期待されています。

- クリーンな排ガス。CO2も削減。
- ガソリン車同等の走行性能
- 燃料費節減に貢献